令和３年度「ちばっ子の学び変革」推進事業（検証協力校）研究状況報告書

１　学校紹介

昭和小学校は昭和３年に創立、学区は袖ケ浦市の西に位置し、ＪＲ内房線袖ケ浦駅に隣接している。近隣には市役所・図書館・陸上競技場など、行政や文化、商業、スポーツ等の施設があり、市の中心地でもある。児童数６９０名、職員数４８名、学級数２６(うち特別支援学級４)の中規模校である。保護者の学校教育に対する関心は高く、温かな協力を寄せてくれている。

２　研究主題

『主体的・対話的で深い学び』を実現する学習指導の在り方

～「思考し、表現する力」を高める国語科の授業改善を通して～

３　研究の概要

（１）児童生徒の実態と課題

令和２年度より、新学習指導要領が施行され、学習も「知識・技能」と「思考・判断・表現」の大きな２つの観点で指導・評価していくこととなった。

県学力検査（令和２年度実施）の結果を見てみると、どの学年でも、どの教科も、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」の正答率を下回っている。本校の児童は、基礎基本はできているものの、身につけた知識や技能を活用して考えたり、広げたり、表現したりする力はまだ十分ではないと言える。

また、全国学力・学習状況調査の正答率を見ると、平成２９、３０年度については、３０年度に国語Ｂと算数ＡＢにおいて全国平均を下回った。令和元年度実施の結果にみられる特徴と現状分析には、

（国語）
○平均正答率は全国平均を６．２％上回り、どの観点も全国平均を上回っていた。また、「関心・意欲・態度」は全国平均より７．４％高く、「関心・意欲・態度」の高さが、結果に結びついていると考えられる。
▲書き出しの言葉に続けて４０字以上７０字以内で書く問題は、約３割の正答率だった。条件に合わせ、文章を要約する力が身についていない児童が多い。
▲「関心」の正答率が３５％だった。「感心」と書いた児童が５０％いた。文脈にあった漢字を正しく使うことができない児童が多い。

とある。全体的には学力は高いと言えるが、学年によって差がある。いずれも、基礎基本については理解が高いものの、活用・表現については練習が必要と考えられる。

（２）学力向上のための取組

そこで、各教科に共通して必要な「読み取って考える力」を伸ばすために、今年度から国語科の研究に取り組み、児童の実態を分析・把握し、授業改善を図る中で主体的・対話的で深い学びを目指した様々な手立てを考え、思考力・表現力を高める学習指導のあり方を追求していくことにした。

研究仮説を

国語科の学習において、「目的や意図に応じて、自分の考えを明確にして書く」学習活動を位置づけることで、読む能力及び書く能力が向上し、思考力・表現力を高めることができるであろう。

とし、研究を進めた。

①理論研修

○南房総教育事務所　碇山智生指導主事から「確かな学びのためにどのような授業をしたらよいか」「国語ＴＴのあり方」について、講義を受け研修した。

○指導案の形式、書き方について授業研講師からのアドバイスや資料提供を受け、先行研究を参考にして話し合い、書き方を学んだ。

○児童の実態調査の取り方について、学年ごとに話し合い、ちばっ子チャレンジ１００や学びの突破口ガイドを活用して、問題を作成した。

②全国学力・学習状況調査の問題や結果の分析

○　５月…実際に問題を解いて、出題の意図や問題の難易度、児童が躓きそうなところを把握。
　子供に付けたい力やその力をつけるための手立てについて話し合った。

○１０月…結果分析。条件に合わせて文章を要約する問題（面ファスナーの設問）の正答率が低く、設問から必要な情報の一部しか見つけることができなかった児童が多かった。

③継続した「書く活動」の検討・実践

「書く活動」を年間通して継続的に行い、表現力・判断力・思考力につなげていく。

低学年…教科書の「てびき」活用、ちばっ子チャレンジ１００、行事の後に短作文、日記など
また、書くためには音読も大切ということで、音読にも力を入れて取り組んだ。

高学年…教科書の「書く活動」に条件（字数など）をつけて書く、学調の過去問を解く、ちばっ子チャレンジ１００、週末に作文や日記の宿題、行事の後に短作文

書くことが嫌いにならないように、書く内容や形式・量などは児童の負担にならないよう工夫して取り組ませた。

④授業研究（年間４回、全員授業）

高学年部会と低学年部会に分かれ、授業改善を図れるよう、単元を考えた。指導案作成の際は「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の「見出す」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」の過程を指導の重点として、学習活動を考えるようにした。また、指導計画（特に本時）には必ず「書く活動」を組み込み、仮説を検証することとした。

また、特別支援学級も国語の授業研に取り組み、児童個々の実態に応じた指導法を研究した。

＜各学年が取り入れた「書く活動」＞

学年	教科書　単元名・教材名	書く活動
1	だれが、たべたのでしょう	教材文や自分の選んだ本からわかったことを整理して、「どうぶつリーフレット」を作る。
	はたらくじどう車	教材文や自分の選んだ本からわかったことを整理して、「のりものカード」を書く。
	きこえてきたよ、こんなことば	写真を見て、わかることを構成メモに書き、お話を作る。
2	「クラスお楽しみ会」をひらこう	やりたい遊びとその理由をスピーチ原稿カードに書く。
	アレクサンダとぜんまいねずみ	友達や家族に物語を紹介するチラシにあらすじを書く。
	「お話びじゅつかん」を作ろう	紹介したい本を選び、心に残ったところを絵に描いたり、おすすめ文を書いたりする。
	しゃしんをくらべて、考えよう	写真から読み取ったことや想像したことを適切な接続詞を使って順序良く書く。
3	しりょうを集めて活用しよう	生き物について調べたことを情報カードに書く
	「おすすめ図書カード」を作ろう	主人公の心情の変化を中心に「おすすめ図書カード」を書く。
	はっとしたことを詩に書こう	表現を工夫して詩を書く。
	ことわざ・慣用句	ことわざ・慣用句を使った短文を作る。
4	写真などの図のよさを知り、活用しよう	自分の選んだ写真から読み取ったことをスピーチ原稿に書く。
	ごんぎつね	登場人物の心情の変化を読み取って書く。
	「ショートショート」を書こう	思考ツールを使って不思議な言葉を考え、その言葉から想像したことをショートショートを書く。
5	俳句を作ろう	表現を工夫して俳句を書く。
	提案文を書こう	身の回りから取材して提案文を書く。
	世界遺産白神山地からの提言	情報から読み取ったことをもとに意見文を書く。
	「図書すいせん会」をしよう	自分が選んだ本の推薦文をポップや帯に書く。
6	物語を作ろう	写真から想像したことをもとに物語を書く。
	書評を書いて話し合おう	人物相関図を作成し、書評を書く。
	自分の考えを発信しよう	取材したことをもとに意見文を書く。

（３）加配教員の活用

本校では、加配教員を国語ＴＴと位置づけ、実践に取り組んできた。指導の形態としては

【Ｔ１として】

・主となって授業を進める。（１時間又は一部）

【Ｔ２として】

・支援を要する児童１人について個別指導・集めて指導・机間巡視しながら支援する。

・Ｔ１を補助する。（板書をする・範読をする等）

・Ｔ１が授業中に進め方で困った時に助言する。

・Ｔ１の発言の補足をする。

今まで国語のＴＴ指導は前例がほとんどなく、この１年、手探りの状態であったが、特に本校で取り組んでいる「書くこと」に関しては、個人差が大きいために、苦手としている児童にとっては国語のＴＴ指導は大変効果的であった。また、教具の作成、指導案作り、担任に対して学習指導の相談にも当たり、担任へのフォロー役として大きな力を発揮した。

ＴＴ指導の課題としては、事前の打ち合わせの時間がなかなか取れないことや、クラス毎に進度が違うために教材研究の時間が非常にかかることが挙げられる。また、今年度は週２時間ずつの指導だったので、単元を通して指導できなかったことも課題である。担任とＴＴ教員の綿密な打ち合わせができるよう、時間の確保が必要である。

４　成果

＜各学年の実態調査より＞（調査結果は抜粋）

	問題の内容	正答		誤答	
		7月	12月	7月	12月
1年	アサガオの観察に必要な事柄が3つ以上書ける。	10%	43%	90%	57%
	文脈に合わせて、理由を書くことができる。	17%	54%	83%	46%
2年	作文を読み、カレー作りの手順を読み取る。	48%	60%	51%	40%
	メモから、スピーチ文を書くことができる。	13%	32%	87%	68%
3年	スピーチをするときに気をつけることを選んで書く。	69%	82%	31%	18%
	メモをわかりやすく書きかえる。	56%	70%	44%	30%
4年	報告文の段落ごとの内容を考え、小見出しを書く。	64%	75%	36%	25%
	インタビューの内容を2文にまとめる。	59%	73%	41%	27%
5年	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って質問をする。	69%	84%	31%	16%
	話し手の意図を捉えながら聞き自分の考えをまとめる。	51%	74%	49%	26%
6年	話し手の意図を捉え、自分の意見と比べて考えを書く。	36%	49%	64%	51%
	文章を読んで必要な情報を抜き出して書く。	28%	51%	72%	49%

○１年生では観察の視点形成・理由を考えて書く、２年生では情報読み取り・メモからの文章化、３年生では、スピーチの観点形成・メモからの文章化、４年生では情報読み取り・内容要約、５年生では話の展開に沿った質問・意見形成、６年生では意見比較・情報読み取りについて、それぞれの力が伸びてきたことがわかった。思考力・表現力を伸ばすことにつながった。

○児童の実態や課題を把握し、学習改善への方向性が明確になった。

“「書く活動」を中心に取り組む”　”主体的・対話的で深い学びを意識した授業作り”

○継続して「書く活動」に取り組んだことによって、児童が書くことに慣れてきた。抵抗がなくなってきた。

○授業研究を行うことで、単元を通して「思考力・判断力・表現力」を高める方法を担任一人一人が考え、試行錯誤しながら実践することができた。

○国語ＴＴによって、個に応じたきめ細かな指導ができた。

５　今後の課題

▲各学年の実態調査の正答率が伸びたとはいえ、到達度と捉えると６０％を切っている項目もあり、十分とは言えない。思考力・表現力を高めるために、今後も授業改善、指導法の工夫に取り組んでいく必要がある。

▲目的に応じて必要となる複数の情報を見つけ、表現することに課題が見られる。複数の条件を満たして、まとめたり書いたりする学習が今後も必要である。